

第1学年 総合的な学習の時間 学習活動案

1 単元 大曾根を地震に強いまちにしよう「大曾根レスキュー隊」(32時間完了)

2 単元について

東海地震の危険性が指摘されてから、すでに何年も過ぎた。その間に阪神淡路大震災が起これ、地震の恐ろしさを強烈に印象づけた。「その時」が来ることを、誰もがある程度覚悟していても、「自分だけは大丈夫だろう」と考え、準備が進んでいない現状がある。

本校の1年生は、総合的な学習の時間に「地域の人から頼りにされる」中学生を目指して、「まちづくり学習」の活動を行うことにした。まちの役に立つ活動を行い、地域の人に肯定的に評価してもらえることで、自分に自信がつき、まちづくりの主体者としての自覚も高まると考えたからである。中学生が、実際にまちの人と協力して、まちの役に立つ活動をしていこうとするときに、「地域の防災」という視点はとても重要であり、豊かな可能性を秘めている。ところが、「地域の防災」は非常に現実的な課題であるにもかかわらず、町内会や自治会、学校の現場でも、本当に役に立つ活動をするのはなかなか難しく、避難訓練や、代表者による消火訓練などの「非日常的な行事」に限られてしまいがちである。そこで、中学生が防災の専門家のサポートを受け、まちの人を巻き込みながら、具体的、日常的な地域の防災について考え、行動する活動を提案する。

中学生とまちの人が課題解決のための活動をともに行い、触発しあうことによってお互いの防災意識が高まり、地域の防災への備えが進む。また、中学生の活動を媒介に、まちの人同士の結びつきが生まれることも期待できる。このような、学校、地域、専門家のパートナーシップをベースにした活動を行うことで、中学生の「(防災)まちづくり参画への自信と自覚」が高まり、中学生もその構成員として頼りにできる「地域力」を持ったコミュニティの再生につながっていくと考える。

3 目標

- まちの役に立つ活動を、まちの人との交流しながら行うことで、自分も大曾根のまちの役に立ちたいという気持ちを高めることができる。(関心・意欲・態度)
- 自分たちの住むまちを「防災の目」で見ることによって再認識し、それをもとに、まちの防災力向上のための活動や提案をすることができる。(問題解決の能力)
- 活動を通して、防災についての知識を深め、災害に対して実際に備えられるようになる。(防災の知識と技能)
- まちの役に立つ活動を実際に行うことで、自分がまちの役に立つことができたという自信を持つことができる。(活動に対する自信と自覚)

4 活動計画と評価計画(32時間完了)

段階	活動計画			評価計画	
	活動内容	形態	時数	学習活動における評価基準	評価方法
課題	オリエンテーション ○ 1学期に大曾根のまちの宝を探し、まちの良さを知ることができた。そのまちに対して中学生が役に立つ活動を行うことを知る。 ○ 東海大地震の発生に備えて、中学生にもできることがあることを知る。 ○ 防災の専門家から、地震とその備えについての話を聞き、その内容を理解する。	学年	2	これからの活動に、意欲的に取り組もうとすることができる。 (関心・意欲・態度)	学習プリント
	共通の活動 ○ もし、東海地震が起きたらどんなことに困るか、どんな不安があるかについて話し合う。 ○ 特に不安に思う内容について、その解決策を話し合う。	学級	2	地震災害について、具体的に考えることができる。 (知識・技能) 様々なアイデアを挙げ、問題解決を図ろうとする。 (課題解決の能力)	模造紙 行動観察
	まちの人からの依頼と、プロジェクトの紹介 ○学区の区政協力委員長さんから、4つのプロジェクトの活動を通して学区の防災力を高めて欲しいという依頼を受ける。	学年	2	地域で中学生の助けが必要とされていることと、その具体的な内容を理解することができる。 (関心・意欲)	学習プリント

出 会	<p>大曾根レスキュー隊 4つのプロジェクト ①～④のプロジェクト別に分かれる</p> <p>① それぞれの家で必ず備え隊 (略称：家庭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような非常持ち出し袋を用意したらよいか、家具の転倒を防ぐにはどうしたらよいかなど、家庭での備えについて提案する。 <p>② 地震時のまちの安全確かめ隊 (略称：防災マップ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海地震が起こったときに、学区の「危険な場所」「役に立つもの」などをまとめ、学区の人の準備・避難に役立つ防災マップを作る。 <p>③ 一人でも多くの命助け隊 (略称：救助)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急救命法やサバイバルテクニックをマスターし、実際に人命救助に役立つことができるようになるとともに、その方法を多くの人に広める。 <p>④ 避難所で快適ライフ過ごし隊 (略称：避難所ライフ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大災害が起こったときに開設される避難所での生活について調べ、どのようにすれば、少しでも快適に過ごせるかを検討し、提案する。 				
	う	<p>○ 富士常葉大学の学生による寸劇を鑑賞し、自分がどのプロジェクトに参加するかを決める。</p> <p>○ 学生の指導で、災害時に役立つランプを製作する。</p> <p>希望調査</p> <p>○ プロジェクトの希望調査を行う。</p>	学級	<p>自分の参加したいプロジェクトを真剣に考え、決定することができる。</p> <p>(関心・意欲・態度)</p> <p>ランプを、進んで作ろうとする。(関心・意欲・態度)</p> <p>これからの活動に、意欲的に取り組もうとすることができる。(関心・意欲・態度)</p>	<p>学習プリント</p> <p>行動観察</p> <p>調査用紙</p>
課 題	<p>プロジェクト別の活動</p> <p>○ 各プロジェクト別に、課題追求のための活動計画を立案する。</p> <p>○ 現地調査、聞き取り調査の計画を立てる。</p> <p>○ 計画に従って、現地調査や聞き取り調査などの活動</p>	プロジェクト別	20	<p>大曾根のまちの役に立ちたいという気持ちを持って、活動や提案を行おうとすることができる。</p> <p>(関心・意欲・態度)</p>	行動観察

追	を行う。 ○ 必要に応じて、図書やインターネットなどを用いた調査も行う。 ○ 調査結果をもとに、話し合いながら、自分たちの活動や提案をまとめていく。 ○ 提案・実践などの最終的な成果(物)に向けて準備する。 ○ それぞれ支援してくれる専門家から、アドバイスを受けながら、活動を進めていく。		様々なまちの人の考えを調べ、取り入れながら、自分たちの活動や提案に練り上げていくことができる。 (問題解決の能力) 中間発表会やポートフォリオによって活動の進行状況や内容をふりかえり、方向性を確かめ、修正することができる。 (主体的な判断・総合的な見方考え方)	学習プリント 行動観察 学習プリント 行動観察
	各プロジェクトの進行過程			
究	家庭	防災マップ	救助	避難所ライフ
	① 家にいるときに地震が起きたらどんなことが起こるのか、を調べ、自分の家の平面図を書き、被害を想定する。 ② これまでに調べたことをもとに、各家庭でどんな備えをしたらよいのかを話し合う。 ③ まちの人のためにできることを考え、計画し、実践する。 ○予想される活動例 まちの人の意識調査、防災ずきんの製作、非常持ち出し袋の開発、家具の固定法の習得	① 地震のときにどんなことが起こるのか、いざというときに地域の人々が困らないためにどんなことが必要なかを話し合う。現地調査をするときの視点を明らかにする。 ② 地図とデジカメを持って対象地区を歩き、災害が起こったときに「危険な場所」「役に立つもの」を探し、記録する。地域住民から地震に対して不安なことを聞き取り調査する。 ③ 大きな地図に調べたことをまとめる。	① 心肺蘇生法について学び、実習する。 ② けがをした人に対する処置について学び、実習する。 ③ 救助プロジェクトでこれから扱っていくテーマについて話し合い、自分が特に取り組みたい活動を決める。 ○予想される活動例 台所にある食材で、をなるべく長く食べ続ける方法の研究、道具や燃料が少ない状況でご飯を炊く方法の研究、簡易照明装置の製作、けが人の搬送法の習得、簡単な保温法の研究	① 避難所のしくみやはたらきについて、避難所生活の実際について調べる。 ② 学区の避難所を見学し、まちの人の避難所生活に対する不安を調査する。災害弱者の立場で避難所生活を見直す。 ③ 避難所生活を快適にするためのアイデアを出し合い、自分を取り組みたい活動を決める。 ○予想される活動例 避難所での中学生の役割を考える、乾パンのおいしい食べ方の研究、避難所での幼児の世話の方法
る				

	④ 調査内容や提案， 実践活動をまとめて 発表できるように仕 上げる。	④ まとめをもとに， まちの人に役立つ情 報を選択し，地域に 配布するための防災 マップを仕上げる。	④ 調査内容や提案， 実践活動をまとめて 発表できるように仕 上げる。	④ 調査内容や提案， 実践活動をまとめて 発表できるように仕 上げる。
	最終的な成果(物)			
	家庭での備えハンドブ ック，防災ずきん， 究極の非常持ち出し袋	学区の防災マップ， 調査に基づくまちの改 造提案	救急法ハンドブック 救急法紙芝居(劇)	避難所快適ライフハン ドブック，避難所快適 ライフ紙芝居(劇)
	支援する専門家			
	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育チャレンジプラン ・学区の各自治会 ・区役所 ・消防署 ・赤十字 ・名古屋きた災害ボランティアネットワーク ・富士常葉大学環境防災学部 ・京都大学防災研究所 ・NPOレスキューストックヤード[RSY] ・NPOまちの縁側育み隊 			
成 果 を 表 現 す る	<p>○ 「大曽根防災フェア」を企画して，活動を行ったり発表したりする。 活動や発表を通して，地域の人と交流する。(学年：2時間)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○ 地域の人，保護者などを体育館に招いて，各プロジェクトの発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに調査してきたことや，防災への提案をまとめたものを会場に展 示する。 ・各プロジェクトごとに，時間を決め，発表を行う。ワークショップ形式で 参加型の発表を工夫する。 ・発表のない時間帯は，他のプロジェクトの発表に参加する。 </div> <p>○ 「敬老会の昼食会」で防災ずきんをプレゼントしたり，地震への備えについて提案 したりする。</p> <p>○ 「小学校や保育園」を訪問して，地震にどう備えたらよいかを小学生や保育園児に もわかりやすく，紙芝居や劇などの手法を使って発表する。</p> <p>○ 「学区のコミュニティーセンター」でまちの人に向けて，これまで調べてきたこと， 防災への提案などを発表する。</p> <p>○ 「ホームページ」にこれまでの活動や，防災への提案をまとめて掲載する。</p> <p>評価計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表に進んで参加し，活動しようとする事ができる。(関心・意欲・態度) ・自分たちの活動や提案を，大曽根のまちの人に向けて積極的に伝えることができ る。(関心・意欲・態度) 			

	・活動や提案の内容をわかりやすくまとめ、発表することができる。(表現・技能)				
ふ り か え る	ふりかえり ○ 大曽根レスキュー隊での活動について、まちの人や、専門家からの評価をもらった上で、グループ内で相互評価した後、自己評価して、活動をふりかえる。 (まちの人からの評価は、防災フェアなどにアンケートによって集めておく。)	プロ ジェ クト 別	2	まちの人や、専門家から評価を受けて、自分の活動に価値を認め、自信を持つことができる。 (活動に対する自信と自覚) これまでの活動をふりかえり、自己の成長・変化を積極的に認めようとする ことができる。(自己の生き方)	学習 プリント
	○ これまでの活動をポートフォリオをもとにふりかえて、まちへの印象や自分とまちとのかかわり方の変化について考える。 ○ これからの大曽根と、自分がまちにどうかかわっていくかを考え、作文に書く。		2	まちづくりの主体者としての自覚の高まりを意識することができる。 これまで学んだことを、大曽根のまちに生かそうとすることができる。 (活動に対する自信と自覚) (自己の生き方)	学習プリ ント 作文